

7/17  
五郎

# 守りつけ

子どもの  
健康

自治体が独自に拡充して  
きた子どもの医療費助成。  
その努力をペナルティー措  
置（国保の国庫負担を減  
額）で妨害している国とど  
もだ。一部メディアは「過  
度な軽減は安易な受診につ  
ながら、医療費が一段と膨  
らむ要因にもなる」（6月  
7日付「日経」）などと繰  
り返し攻撃しています。

「子どもたちのために助  
成の拡充を」と願う住民の  
声をしぼませようという悪  
意を感じます。実際に「安  
易な受診は増えていない  
し、医療費は膨らんでない  
ません」。いつ批判から

## 医療費助成を妨害

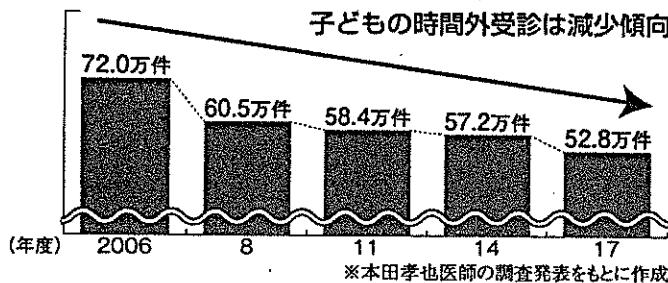


本田孝也医師

のは全国保険医団体連合会  
(保団連) 情報通信部長で  
理事の本田孝也医師です。

### 時間外受診は減

本田氏らの調べによる  
と、医療費助成の拡充に伴  
つて対象人口が増加した一  
方、0歳～14歳の子どもが  
通院した際のレセプト（診  
療報酬明細書）件数は、全  
国で2002～16年度の  
間、1・2億～1・3億件  
で横ばいのまま推移。子ど  
もの医療費も毎年2兆円ほ



# 「安易な受診」増えてる

んどで推移しており、「膨張  
している」とは言えませ  
ん。

厚労省は、全自治体が高  
い受診者増や患者負担の減少  
で国の医療給付費が840  
0億円増えると試算。小学  
生以上を無料化している自  
治体へのペナルティー措置  
を続けています。しかし、  
仮に8400億円増えて  
も、18年度の医療給付費39  
・2兆円（見込み額）の2  
倍以上になります。

一方、「気付きたくなく  
病気と言われる歯肉炎・歯  
周病などの歯科受診件数  
(0～19歳)は、02～17年  
度で4・6倍化し、35万件  
から1・61万件に増えてい  
ます。

これが「重症化が防  
止され、その結果として時  
間外受診が減った」と考へら  
れます」と評します。

校卒業まで無料化すると、  
ことがでて、重症化が防  
止され、その結果として時  
間外受診が減ったと考へら  
れます」と評します。

一方、「気付きたくなく  
病気と言われる歯肉炎・歯  
周病などの歯科受診件数  
(0～19歳)は、02～17年  
度で4・6倍化し、35万件  
から1・61万件に増えてい  
ます。

むしく、一部メディアな  
どが「安易に受診する人が  
増える」という夜間や休日  
などの時間外受診の件数  
(0～19歳、各年6月)は、  
全国で72万件（06年度）か  
ら52・8万件（17年度）へ  
と減少傾向です。本田氏  
は、「医療費助成の拡充に  
よって必要な医療を受ける  
く抑えないとつながりま

### 政治の転換

この増加について、本田  
氏は「これも必要な受診が  
増えた結果ですが、子ども  
のうちに歯周病をきちんと  
治せば、将来的に全身の疾  
病予防になります。長い目  
で見て医療費の増加を大き  
く抑えることにつながります。  
(おわり)

す。医療費助成は良いこと  
だけです」と指摘。「そ  
れにもかかわらず、保護者  
や住民の願いを諒めさせ  
たり、自治体の努力にブレ  
ーキをかける手法は正しく  
ありません。国の責任で無  
料化を実現すべきです」と  
強調します。